2020 年度実施概要

学校名

気仙沼市立松岩小学校

採択活動名

海のいのち　山のいのち　つなぐ里「松岩」

実施単元

単元名	学年	教科
1. 守ろう！私たちの海	４年生	総合
2. 守ろう！私たちの命	４年生	総合
3. 海と生きる　ぼくらは気仙沼の海大使	５年生	総合

取組の概要

１　守ろう！私たちの海（４年生）　　指導期間　６月～１２月

世界的に海の環境保護が課題となっている海洋プラスチックゴミについて，体験や講義，専門家との対話を通して学ぶ学習を 32 時間の時間を確保し行った。児童自身が問いを立て，探究的な学習が展開できるように豊かなステークホルダーを準備し，学習を展開した。探究段階に応じて行った学習は，以下の通りである。

【問いをもたせる】レジ袋は，なぜ有料になったの？
海洋プラスチック問題って何だろう？

【問いを立てる①】気仙沼の海でもマイクロプラスチックは見つかるの？（全体課題）

【調査活動】　気仙沼市大島「田中浜」で調査活動をしよう

【問いを立てる②】　どうしてマイクロプラスチックはできるのだろう？
マイクロプラスチックを魚が食べたらどうなるの？
マイクロプラスチックは減らせないの？（個別課題）

【課題解決】「マイクロプラスチックの正体と生態系や海洋環境について」
東京海洋大学院　内田准教授が来校した。マイクロプラスチックの事，生態系との関係，世界の海洋プラスチック問題，その対策等について講話をいただいたり，児童の質問に答えていただいたりした。

「生活で使用するプラスチック減量作戦～今大人がやっていること～」
① 地域の婦人部の方の取組紹介
② 気仙沼市生活部環境課の取組紹介
③ 気仙沼の企業の取組紹介

【行動する】地域の人や学校のみんなに海洋プラスチックについて教えよう

・地域の大型店，公民館，各種学校や幼稚園にポスターを作成し，啓発活動をしよう
・プラスチック減量を呼び掛ける CM を作成し，校内放送で流そう

２　守ろう！私たちの命（４年生）　　指導期間　１２月～３月

東日本大震災から 10 年目の節目となる 2021 年，2011 年生まれの児童が，初めて東日本大震災を素材とした防災学習を行った。20 時間を掛け，実際に避難所運営に当たった公民館職員の「命」への思いを聞くことから，学習は展開し，自助について考え，命を守る自助の在り方を 10 才の子供達が地域や家族に発信する。

【問いをもたせる】避難所となった松岩公民館に行って，当時の様子を聞こう

本校は学区の4分の1が被災しており，その地区の人々は，震災当時，松岩公民館に身を寄せた。その当時から公民館に勤務している職員の方から，震災時の松岩の様子や人々が協力をして過ごしたこと，多くの支援をいただいたことなどを，震災を知らない児童に語り掛けるように話していただいたり，対話をしたりした。

【問いを立てる①】震災はどうしておきたの？気仙沼はどうなったの？（全体課題）

【調査活動】防災士さんから話を聞こう

防災士の資格をもつ方を講師に招き，震災のメカニズムやマグニチュード等の地震の基礎知識，気仙沼の被害の様子，震災を通して学んだ「津波てんでんこ」の教訓などを，児童の心に配慮しながら実際の写真などを活用して講話や対話を行っていただいた。

【問いを立てる②】　身を守るためにどんなことを伝えたらいいだろう？（個別課題）

【課題解決】防災の図書を調べよう　防災士さんから更に話を聞こう

【行動する】震災を知らない 10 才のメッセージを載せたリーフレットや壁新聞を作って，地域の人や学校のみんなに，災害から大切な命を守ることを発信しよう（3 月完成予定）

３　海と生きる　ぼくらは気仙沼の海大使（５年生）　　指導期間　６月～３月

海に生きる気仙沼の「環境・産業・社会」について，1 年間じっくりと多くの体験や見学を行い，3 月は，「気仙沼の海大使」として，気仙沼の海の PR 活動を行う。

【問いをもたせる】松岩と海の関係を知ろう

松岩地区は山，川，海の環境が学区内に有り，養殖業や水産加工場も保有していることをクローズアップし，海洋についての学びの窓を開く講話を聞いた。

【問いを立てる①】「海の町」気仙沼について知ろう

「環境・産業・社会（人々の生活）」を視点として「海の町気仙沼」を学習する。

【体験活動】①　森は海の恋人ってどういうこと？

気仙沼市の舞根湾に移動し，豊穣な海が森とつながりがあること，プランクトンの存在や牡蠣の水質浄化作用などを学んだ。

②　地域の山に広葉樹を植えよう

学区に在る長森山に広葉樹の植林活動を行った。

③ 水揚げから加工まで

気仙沼市魚市場の水揚げや電子化された競りの様子，販売店の様子，地域に在る水産加工場の様子を見学した。

④ 漁師の工夫，加工業者の工夫，それぞれの未来

長年遠洋漁場で補給船に乗り活躍していた方を講師に迎え，遠洋漁業漁師の生活，マグロ延縄漁法，MSC 認証，サステナブルな漁業の在り方について，講話を聞いた。また，宮城県北部鰹鮪漁業協同組合からマグロ丼の提供を受け，気仙沼の海の恵みについて食を通して実感した。

水産加工業見学は，フカヒレ工場を見学し，気仙沼のフカヒレを日本にとどろかすまでの叡智を知ると共に加工場の様子を見学した。

技能実習生の人々を受け入れることで，人手不足を解消していることや，IT の利用により世界中に発信できるようになったことなど，持続可能な漁業の在り方を模索していることを知った。

⑤ ワカメの養殖業と後継者不足

震災で一度は海の藻屑と化した養殖業を復興させ，ワカメ等の養殖を行っている方々と共にワカメの種付けと刈り取りを行った。養殖業を行う方々の高齢化が進み，後継者不足であることを実際の活動を通して理解した。

【問いを立てる②】 「環境・産業・社会（人々の生活）」の3観点から，自分が一層知りたいことを問いにしよう（個人課題）

【課題解決】 それぞれの専門家と対話を通して課題を解決しよう（3月下旬まで実践予定）

【行動する】 気仙沼の海大使として，自分達の考えを専門家の方々と意見交流をしよう（3月下旬に実践予定）